

目次

謎解きミステリー

赤い稲妻

有栖川有栖

意外な犯人

綾辻行人

流れ星のつくり方

道尾秀介

編者解説
千街昂之

173

131

55

5

赤い稲妻

あまのむすび

有栖川有栖

ありす

それはとんでもない夜だった。

二人の女が命を落とした血腥い事件。六月の末とは思えないほど冷たい雨が、その死を抱きくるんでいた。

まずは、ジェニファー・サンダースの死から始めよう。

*

その夜、午後十一時前。大阪に住む私、有栖川有栖は、京都に住む友人、火村英生の電話を受けて車で現場へ急行した。私は推理作家、火村は京都の英都大学社会学部の助教

授だったが、われわれがこのような形で警察の捜査に加わることは稀ではなかった。というのも、火村はフィールドワークと称して刑事捜査に参加し、数々の事件解明に多大の貢献をしてきたし、私はその助手と認められていたからだ。『臨床犯罪学者』火村の存在は警視庁他、いくつかの県警本部に知られているが、京阪神では特に有名だ。が、彼本人の希望と当局の事情が一致し、火村の名前が世間に出ることはなかった。

現場は十階建てのマンション、シャンテ桂。桂川からほど近く、京都近郊にしては淋しいほどのところだった。周囲には空き地が多く、工場が点在している。そのシャンテ桂の七階から女が突き落とされたというのだ。ただ、それだけの事件ならば府警本部の柳井警部は火村に「きますか？」という一報を入れなかつただろう。それが「ぜひきてください」という電話になったこと理由は、まず、事件の目撃者が英都大学社会学部の二回生、つまり火村の教え子であったこと。もう一つの理由は、後述するが、その目撃者の証言に非常に不可解な点があったためだった。

さて、オンボロのブルーバードを現場に乗りつけた私は、いつものように見知った顔を捜した。死体が横たわっていたらしきあたりには、もちろん捜査官らの姿が多くあつたが、